



注意事項

- 1 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
- 2 問題は2～11ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
- 3 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
- 4 マーク解答用紙記入上の注意
- (1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。
- (2) 所定欄以外に受験番号・氏名を記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
- (3) マーク欄にははつきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと。

マークする時	● 良い	○ 悪い
マークを消す時	○ 良い	● 悪い

5 記述解答用紙記入上の注意

- (1) 記述解答用紙の所定欄（2カ所）に、氏名および受験番号を正確に丁寧に記入すること。
- (2) 所定欄以外に受験番号・氏名を記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
- (3) 受験番号の記入にあたっては、次の数字見本にしたがい、読みやすいように、正確に丁寧に記入すること。

数字見本	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(4) 受験番号は右詰めで記入し、余白が生じる場合でも受験番号の前に「0」を記入しないこと。

例) 3 8 2 5 番

↓

万	千	百	十	一
	3	8	2	5

- 6 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
- 7 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
- 8 いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。

(一) 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

※この問題は、著作権の関係により掲載ができません。

※この問題は、著作権の関係により掲載ができません。

※この問題は、著作権の関係により掲載ができません。

(注) コントラスト……明るい部分と暗い部分の「明るさ」の差

γ補正……ガンマ補正。明るさなどの調整

フォトショップ……画像加工ソフトウェアの一つ

バンド……図1の帯のようなもの

MRI……体の断層画像を撮影する装置

シークエンス……連続

オワンクラゲ……クラゲの一種

マニエリスム……後期イタリア・ルネサンスの美術様式

昂進……高い度合いにまで進むこと

キツチュ……通俗的

クライテリア……判断基準

(田中純の文章による)

- \* 1 Mike Rossner, Kenneth M. Yamada, What's in a picture? The temptation of image manipulation, *JCR*, 166, 11-15 (2004).
- \* 2 Cf. Horst Bredekamp, *Der Bildakt*. Berlin: Wagenbach, 2015, S. 23-25
- \* 3 Cf. Bredekamp, *Der Bildakt*, S. 111-299; Horst Bredekamp, *The Picture Act: Tradition, Horizon, Philosophy*. In: Sabine Marlenberg and Jürgen Trabant (eds.), *Bildakt at the Wartburg Institute*. Berlin/Boston: De Gruyter, 2014, pp.15-26
- \* 4 ロラン・バルト『恋人のマイスタール・断章』、『三好郁朗訳』みすず書房、六頁
- \* 5 Cf. Horst Bredekamp, *The Picture Act*, pp. 20-21
- \* 6 Sigrid Weigel, *Grammatologie der Bilder*. Berlin: Suhrkamp, 2015, S. 83

問一 空欄

a

に入る内容として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 何らかの調整を加えられた画像が一転して「より微妙な操作」として認められるかどうか
- ロ 何らかの調整を加えられた画像が一転して「深刻な不当表象」として受け取られるかどうか
- ハ 何らかの調整を加えられた画像が一転して「不当表象」ではなく、オリジナルの意味を持つかどうか
- ニ 何らかの調整を加えられた画像が依然として「不当表象」のままオリジナルなデータとして意味を持つかどうか
- ホ 何らかの調整を加えられた画像が依然として「オリジナルなデータの正確な表象」であるかどうか
- ヘ 何らかの調整を加えられた画像が依然として「深刻な不当表象」のまま受け取られるかどうか

問二 空欄

b

c

に入る最も適切な語句を、次の中からそれぞれ一つずつ選び、解答欄にマークせよ。

- イ なぜならば
- ロ 逆に言えば
- ハ もとはと言え
- ニ 素直に考えれば
- ホ たとえるならば

空欄 c

- イ 同様に
- ロ 付言すると
- ハ むしろ
- ニ それゆえ
- ホ ともあれ

問三 傍線部 1

「いかに画像が決定的な役割を演じているか」とあるが、何に対する「決定的な役割」か。本文中より、

八字以内(句読点や括弧・記号などが含まれる場合には、それぞれ一字分に数え、必ず「マス用いること」で抜き出し、記述解答用紙の解答欄に記せ。

問四 傍線部 2

「すでに」という先行性自体が事後的に構成されたものということになる」とはどういうことか。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ ある種の操作によって始めて、科学者が抱く表象の正確性が視覚化できること。
- ロ ある種の操作によって始めて、存在していない特徴がデータに追加されること。
- ハ ある種の操作によって始めて、立ち返るべき根拠自体が顕在化してくること。
- ニ ある種の操作によって始めて、存在している特徴がオリジナルと認められること。
- ホ ある種の操作によって始めて、画像の持つオリジナリティーが明瞭になること。

問五 傍線部3「創像」のプロセスを継承する営みとして、画像操作への「誘惑」が強いものとなる」のはなぜか。

その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 「創像」の一環としての画像操作であったとしても許されないと筆者は考えているから。
- ロ 「創像」の一環としての画像操作は筆者による科学的検証によって正確性を与えるから。
- ハ 「創像」の一環としての画像操作が科学者の不正な研究方法を「正当化」するから。
- ニ 「創像」の一環としての画像操作によってオリジナル性の高い研究が推進されると科学者が確信するから。
- ホ 「創像」の一環としての画像操作であるならば「正当化」の境目が曖昧になりがちだから。

問六 傍線部4「イメージはそこでもはやたんなる図解ではなく、独自の分析手段となっている」とはどういうことか。

最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 現代の自然科学において、可視化されたイメージは、たんに説明をわかりやすくするものではなく、科学者はそれを用いて先駆的な研究を進めることができるということ。
- ロ 現代の自然科学において、可視化されたイメージは、たんに説明をわかりやすくするものではなく、科学者はそれを「オリジナルなデータ」に置き換える工夫をしているということ。
- ハ 現代の自然科学において、可視化されたイメージは、たんに説明をわかりやすくするものではなく、科学者はそれを不当表象とならないように研究しているということ。
- ニ 現代の自然科学において、可視化されたイメージは、たんに説明をわかりやすくするものではなく、科学者はそれから重要な科学的な結果を読み取っているということ。
- ホ 現代の自然科学において、可視化されたイメージは、たんに説明をわかりやすくするものではなく、科学者はそれを用いて新しい画像操作方法を創出しようとしていること。

問七 傍線部5「心臓の「像」がほとんど生きている」とはどういうことか。その説明としてふさわしくないものを次

の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ MRIから得られる心臓の像それ自身が、医学的診断に利用できるほどにオリジナルの心臓を代替していること。
- ロ 心臓の表象と心臓そのものとの境界が消滅することによって、生きた心臓とその表象との区別がほとんどなくなっていること。
- ハ 心臓の像が、その見た目以外の部分でもオリジナルの心臓を代替し、完全ではないまでも心臓を「体現」していること。
- ニ 伝統的な像行為論の射程を超えて発展した可視化技術によって、画像としての心臓が生命力にあふれているように感じられること。

ホ 心臓の像とオリジナルの心臓とはそもそも異なる存在ではあるが、両者はその機能において高い類似性をもつに至っていること。

問八 傍線部6「像付与」は顕在化している可視的特徴の強化や潜在的な要素を技術的に眼に見えるものとする「可

視化」からは区別される」とはどういうことか。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 像付与とは、データには存在するものを見えやすくする可視化技術とは異なり、そもそも見ることができない抽象的な存在から像を創り出すということ。
- ロ 像付与とは、創像によってはじめてあらわになった特徴を増幅し、隠れがちな要素を視覚化する技術とは違い、無から有を創り出すということ。
- ハ 像付与とは、たとえば眼には見えない脳の活動量を血中酸素濃度で代替するなど、間接的な方法によって視覚化した像を創り出すということ。
- ニ 像付与とは、顕微鏡でしか見られない特質を洗練させる科学者のプロセスとは一線を画し、ヴァーチャルな像を創り出すということ。

ホ 像付与とは、すでに見えているものや見えていないものを明瞭にする技術のことではなく、混在を避けつつ、生き生きとした像を創り出すということ。

問九 空欄 d に入る用語として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 冗長化
- ロ 一体化
- ハ 流動化
- ニ 有機化
- ホ 可視化

問十 キメラとは生物学の用語であり、ある生物個体内に同種あるいは異種の別個体が存在する現象である。傍線部7「複合的な自然物、ある種のキメラが作られる」とあるが、ここでいうキメラとは何か。本文中の表現を用いながら、十五字以内(句読点や括弧・記号などが含まれる場合には、それぞれ一字分に数え、必ず一マス用いること)で、記述解答用紙の解答欄に記せ。

問十一 傍線部8「誘惑」の歴史的由来と怪物の祖先たちを知ることは、怪物を退治するばかりではなく、巧みに操ることをも助けるに違いない」とはどういうことか。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 画像操作がどのように行われるようになってきたか、また過去のさまざまな成功した像行為研究を参照することによって、誤った操作に手を染めることなく、イメージの修辞学による説得が行えるようになること。

ロ 画像操作がどのように行われるようになってきたか、また過去の説得の技術に長けたさまざまな論文を調査することによって、結果を偽装する行為を慎み、うまく実験結果をまとめられるようになること。

ハ 画像操作がどのように行われるようになってきたか、また過去のさまざまな像行為の事例を考察することによって、不適切な操作を避けるだけでなく、像を有効に活用することができるようになること。

ニ 画像操作がどのように行われるようになってきたか、また過去のさまざまな深刻な不当表象実験を検証することによって、改竄や捏造を避けつつ、適切な画像処理によって科学的成果を得やすくなること。

ホ 画像操作がどのように行われるようになってきたか、また過去のさまざまな自然科学の研究例を検討することによって、過剰な操作を行うことなく、適切な操作と不適切な操作の境界を曖昧にできるようになること。

問十二 著者が本文中で主張している「イメージ」と意味が異なるものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 人体のレントゲン写真
- ロ テレビ画面に映された動画
- ハ 湖面に映った景色
- ニ 鏡に映った自分の姿
- ホ 他者や事物に対する印象
- ヘ 風景のスケッチ

問十三 この文章の内容に合致するものを次の中から二つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 一見「改竄」や「捏造」と思える事例も「創像」のプロセスにおいては正しいことであり、むしろ人文学的には肯定すべきだ。

ロ 画像操作に伴う研究不正を暴くという点において、人文学的イメージ論が自然科学に寄与できる可能性が認められる。

ハ 潜在的な要素を技術的に眼に見えるようにする「可視化」の作業の中に、「創像」のプロセスが入り込むことがある。

ニ 不適切な画像操作を科学的に検証することは、「創像」の原理から見ても不可能であり、研究上の意義は認められない。

ホ 「創像」というものは、本質的には不可視の、像ではあり得ない対象に像を与えるプロセスのことである。

ヘ 画像操作が「不当表象」となるか、許容範囲の「より微妙な操作」となるかは、科学者の画像処理能力の有無に左右される。

(二) 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

※この問題は、著作権の関係により掲載ができません。

(『正徹物語』による)

問十四 空欄

X

に入る語句として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ おぼろけなる
- ロ さやかなる
- ハ ほのかなる
- ニ いざよひの
- ホ ゆみはりの

問十五

傍線部1「風月のたはぶれ」と本文中で同じものを指す語句として最も適切なものを次の中から二つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 月
- ロ 歌
- ハ 凡俗
- ニ 興行
- ホ 敦島の道

問十六

傍線部2「無<sub>レ</sub>勿<sub>レ</sub>体<sub>レ</sub>候」の意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ すばらしい出来でございます
- ロ 究極の悟りでございます
- ハ 遺憾なことでございます
- ニ この上ない風流でございます
- ホ 前例のないことでございます

問十七

傍線部3「奴ばら」と本文中で同じものを指す語句として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 御力者
- ロ 貫頂
- ハ 棟梁
- ニ 鑽仰
- ホ 釈門

問十八 傍線部 a「給ひ」、b「仕り」、c「まゐらせ」はそれぞれ誰に対する敬意を示しているか、最も適切なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、解答欄にマークせよ。なお、同じ選択肢を繰り返してもよい。

イ 慈鎮和尚

ロ 一乗院門主

ハ 仏

ニ 筆者

ホ 世間の人々

問十九 この文章の内容に合致するものを次の中から二つを選び、解答欄にマークせよ。

イ 一乗院門主は兄慈鎮和尚が世間の人々から注目されているのを誇りにしていて、兄が仏教と風流の道を両方究めるよう応援していた。

ロ 一乗院門主は兄慈鎮和尚へ仏門への帰依が足りないことを責めたが、兄は違う方法で悟りの境地に達することを宣言した。

ハ 一乗院門主は兄慈鎮和尚がことあるごとに歌を詠むという悪癖を真剣に止めたいと苦悩していたことを知り、相談にのっていた。

ニ 一乗院門主は兄慈鎮和尚に周囲の噂話に関する書状を出したところ、兄は弟の真心を喜び、これまでの心構えを詫げる返事を書いた。

ホ 一乗院門主は兄慈鎮和尚に対して忠告の手紙を送ったが、兄からの返事を見て、これ以上何を言っても無駄であると悟った。

ハ 一乗院門主は兄慈鎮和尚が宗教者として高い地位にあるのだから、兄は布教活動以外に力を割くべきではないと考えていた。

(三) 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。なお、設問の都合上、返り点・送り仮名を省いたところがある。

一身之盛衰<sup>ハ</sup>在乎<sup>リテ</sup>元氣<sup>ニ</sup>天下之治乱<sup>ハ</sup>在乎<sup>リ</sup>士氣<sup>ニ</sup>元氣<sup>ニ</sup>壯<sup>ナレバ</sup>則<sup>チ</sup>膚革充盈<sup>ニシテ</sup>士氣<sup>ニ</sup>伸<sup>ナレバ</sup>則<sup>チ</sup>朝廷安強<sup>ナリ</sup>故<sup>ニ</sup>善養生者使<sup>レ</sup>元氣不耗<sup>ズ</sup>善治国者使<sup>レ</sup>士氣不沮<sup>ル</sup>欲<sup>セバ</sup>元氣不耗<sup>ル</sup>則<sup>チ</sup>必<sup>ズ</sup>調<sup>ニ</sup>飲<sup>ム</sup>食<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>助<sup>レ</sup>之<sup>ヲ</sup>而<sup>シテ</sup>咽<sup>ハ</sup>喉<sup>者</sup>所<sup>リ</sup>以<sup>テ</sup>納<sup>スル</sup>授<sup>スル</sup>飲食<sup>也</sup>欲<sup>セバ</sup>士氣不沮<sup>ル</sup>則<sup>チ</sup>必<sup>ズ</sup>防<sup>ズ</sup>二壅蔽<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>達<sup>セシメ</sup>之<sup>ヲ</sup>而<sup>シテ</sup>言路<sup>者</sup>所<sup>リ</sup>以<sup>テ</sup>開<sup>スル</sup>導<sup>スル</sup>壅蔽<sup>也</sup>近<sup>キハ</sup>取<sup>リ</sup>諸<sup>レ</sup>身<sup>ヨリ</sup>遠<sup>キハ</sup>取<sup>リ</sup>諸<sup>レ</sup>物<sup>ヨリ</sup>遠<sup>近</sup>雖<sup>モ</sup>殊<sup>トナルト</sup>治道<sup>ハ</sup>無<sup>シ</sup>二。

〔統飢餓説〕による)

(注) 沮……くじく、そこなうの意。

壅蔽……君主の耳を塞いで、諫言を聞かせないこと。また、その状態に陥った君主のこと。言路……臣下が君主に進言する手段。

近取諸身、遠取諸物……『易経』繫辭下伝の言葉。太古の神、庖犧が易の基礎である八卦を創造した時に天地四周をよく観察し、その中から八つの現象を選び取ったことを言う文脈にある。

問二十 傍線部1の意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 全国民の気概
- ロ 軍人の心意気
- ハ さむらいのような男気
- ニ 行政官のやる気
- ホ すぐれた人材の気持ち

問二十一 傍線部2の読み下し文として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ くいををさむるをよくするものはしきをつかひてくじかす
- ロ くいををよくをさむるものはしきにくじかれざらんとす
- ハ くいををさむるものはしきをしてくじかざらしむによし
- ニ よくくいををさむるものはしきをしてくじかざらしむ
- ホ よろしくくいををさむるものしきにくじかれざらしむべし

問二十二 傍線部3の意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ ノドは健康のため飲み物や食べ物を受け入れたり拒んだりする。
- ロ ノドのノドたる理由は飲み物や食べ物を受け入れる点にこそある。
- ハ ノドが体内に取り込む元手となるのが飲み物や食べ物なのだ。
- ニ ノドが受け入れる最も重要な物こそ飲み物や食べ物に他ならない。
- ホ ノドこそは飲み物や食べ物を体内に取り込む重要な拠り所である。

問二十三

この文章の趣旨に合致するものを次の中から二つを選び、解答欄にマークせよ。

- イ 身体の元気が失われると、皮膚の張りつやがなくなり病に罹るといふのと等しく、士気が挫かれると国の勢いは大いにそがれて、すぐにも国内は乱れ始め、滅亡へ向かつてゆく。
- ロ 国政に与る人々はあまり理解していないが、実のところ日々の飲食に気を配り、ノドの状態を最善に保つことが、よりよい政治を行い、国を繁栄させることに直結しているのだ。
- ハ 健康維持のために栄養分を身体に取り入れるノドが重要であるのと同じ道理で、よりよい政治には君主に臣下の進言が通じやすい政治構造を確保することがなにより重要である。
- ニ 国をよりよく治めるためには、上意下達を徹底することも効果的であるが、それは養生のために、飲食を呑み込むノドの状態を常に良好にすると全く同じ道理である。
- ホ 健康は個人にとつてきわめて身近な問題であるが、庶民にとつてはるか遠くにあるように感じられる国政の有り様とも深い関わりがあるので、けっして軽々に考えてはならない。
- ヘ 国をよりよく治める方法のヒントは、我々のすぐ身近な日常生活の中にも隠されているが、為政者は天下国家のことばかりが頭にあつて、この基本原理に往々にして気づかない。

〔以下 余白〕

